

テーマ	材料費の計算				
学籍番号					氏 名

1. 次の資料に基づき、一連の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする。

〔勘定科目〕 材料 買掛金 材料副費 諸口 材料副費配賦差異

- (1) 経法製作所は、八尾商事より A 材料 500kg (@1,200 円)、B 材料 250kg (@800 円) を掛けで購入した。材料副費については、費目別予定配賦により購入原価に含める。なお、支払運賃年間予算額は 300,000 円、検収費年間予算額は 200,000 円、年間予定購入数量は A 材料、B 材料あわせて 10,000kg、年間購入代価は 10,000,000 円である。支払運賃は購入代価、検収費は購入数量を配賦基準とする。

借方		貸方	
材料	839,000	買掛金 材料副費	800,000 39,000

- (2) 材料副費の実際発生額は 28,000 円であった（貸方科目は諸口でよい）。

借方		貸方	
材料副費	28,000	諸口	28,000

- (3) 材料副費の予定配賦額と実際発生額との差額を、材料副費配賦差異勘定へ振り替えた。

借方		貸方	
材料副費	11,000	材料副費配賦差異	11,000

2. 次の資料に基づき、一連の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする

〔勘定科目〕 材料 仕掛品 製造間接費 材料副費 買掛金

- (1) 主要材料 300kg を @1,200 円で掛け購入した。なお、材料副費は購入数量を基準に予定配賦して購入原価に含める。材料副費予定配賦率は @60 円である。

借方		貸方	
材料	378,000	買掛金 材料副費	360,000 18,000

- (2) 購入した主要材料のうち 140kg を倉庫より工場へ払い出した。

借方		貸方	
仕掛品	176,400	材料	176,400

- (3) 月末材料の实地棚卸数量は 156kg であった。発生した棚卸減耗はすべて正常なものである。

借方		貸方	
製造間接費	5,040	材料	5,040